

2025 年度

学校名 岡山県新見市立哲西中学校

対象学年 1年生

① 学習指導案

プログラム	No.11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全 時間)	探究学習テーマ『GI(ジー) Navi(ナビ) (Green Innovation × Navigation)』
学習のねらい	フィールドワークなどを通して地域の魅力や課題について学びを深め、地域の魅力を広く発信したり、持続可能な地域の未来のために提言したりする活動に発展させることを目指す。
学習内容	1 現地環境学習 2 マップ編集作業、看板製作 3 鯉が窪保全活動 4 哲西中学校区小中合同総合学習成果発表会
参考資料 準備品 実施場所等	<ul style="list-style-type: none"> ・角野康郎『日本水草図鑑』、牧野富太郎原著、邑田仁・米倉浩司編集『新分類 牧野日本植物図鑑』、2017年、北隆館 ・哲西町自然と文化の保護協議会 編『鯉が窪の湿原-サワツタの動物・植物』 ・フウロソウの花を訪ねて 著：浅井幹夫 監修：狩山俊悟 ・平凡社 改訂新版「日本の野生植物Ⅰ」 ・佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎他編『日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類』(1981)平凡社 ・林弥栄編『山溪カラー名鑑 日本の野草』(1983)山と溪谷社 ・学習用タブレット、デジタルカメラ、アクションカメラ ・鯉が窪、田中実業株式会社、合同会社トビガスマル

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1 1	・ガイダンス ・環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックを共有する。 ・鯉が窪湿原に関する資料を提示する。 	主体性 (観察、ワークシート)
2	・テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> ・哲西町の豊かな自然環境を保全し、観光地としての認知度を高めるため、自分たちになにができるか考えるよう促す。 	課題設定力 (観察、ワークシート)
4	・現地環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・花の特徴を正確に捉えるためにしっかり観察・取材したり、鯉が窪を守る会や環境ボランティアの方に積極的に質問したりするよう促す。 	情報収集力 (観察、ワークシート)

6	・マップ編集、看板制作	・花の特徴を活かしてオリジナルのキャラクターを考え制作する視点を与える。	課題探究力 (観察、ワークシート)
2	・動画制作出前授業	・地元企業の方からアフレコや写真・動画撮影の技法やコツを主体的に学ぶよう促す。	情報収集力 (観察、ワークシート)
4	・現地環境学習	・花の特徴を正確に捉えるためにしっかり観察・取材したり、鯉が窪を守る会や環境ボランティアの方に積極的に質問したりするよう促す。	情報収集力 (観察、ワークシート)
4	・ふるさと職場見学	・地域の魅力発信に取り組む地元企業の方から、仕事のやりがいや地域への思いを学ぶよう促す。	コミュニケーション能力(観察)
4	・鯉が窪保全活動	・保護者や地域の方との共同作業を通して、保全活動の大切さを体験的に学ぶことができるよう促す。	主体性 (観察)
5	・動画編集	・オリジナルキャラクターの魅力が効果的に伝えられるよう視点を与える。 ・伝え方、見やすさなどの視点を確認させる。	課題探究力 (観察、ワークシート)
5	・学習のまとめ、プレゼン作成		表現力 (発表、プレゼン)
4	・発表練習 ・総合学習発表会	・保護者や地域の方によるフィードバックを自分の将来や生き方に生かすよう、振り返りの視点を与える。	




<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 岡山県新見市立哲西中学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2	教室	・ガイダンス、環境学習 ・テーマ設定		自分たちのアイデアで、地域の魅力をいかに発信していくかを考えることができた。
2				

4	鯉ヶ窪湿原	・現地環境学習		現地で湿原を守る会の方やボランティアの方に質問し、花の特徴や生息環境について学ぶことができた。
6	教室	・マップ編集、案内看板制作		キャラクターやマップを制作するため、協力してアイデアを出し合い活動ができた。
3	教室	・動画制作出前授業		カメラやマイクを実際に使用し、動画撮影やアフレコの技術をプロから学んだ。
4	鯉ヶ窪湿原	・現地環境学習		出前授業で学んだことを活かし、花や生息環境の取材を行うことができた。
4	トビガスマル（動画制作会社、田中実業）	・ふるさと職場見学		地元企業の見学を通し、地域の課題や将来像を考え、地域の活性化について考えることができた。
4	鯉ヶ窪湿原	・鯉ヶ窪保全活動		保護者や地域の方との共同作業を通して、保全活動の大切さを学び地域社会に関わる意識が高まった。

5		<ul style="list-style-type: none"> • 動画編集 		<p>デジタルマップ上で、より効果的に湿原の魅力を伝えられるよう工夫して、動画を作成できた。</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> • 学習のまとめ、プレゼン作成 • 発表練習 		<p>哲西スキルブックリックを意識し、聴衆を惹きつける発表になるよう工夫できた。</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> • 総合学習発表会 		<p>制作物の披露や活動の振り返りを通して、これまでの取り組みを地域へ還元するとともに、生徒自身の学びを深める機会となった。</p>

※添付資料「ときめき発見☆デジタルマップ」

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>生徒がオリジナルキャラクターを考案し、動画編集や音声録音の技術を習得しながら、鯉が窪湿原の魅力を発信できるコンテンツを制作した。完成したパンフレットは市内の観光施設などへ配布し、来訪者に直接手に取っていただける形で広報に取り組むことができた。また、YouTubeやInstagramで紹介動画の公開を進め、地域外にも情報発信の幅を広げている。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>鯉が窪に咲く花を元にオリジナルキャラクターを生徒が自由に考えたが、花や葉の細かな形状や特徴から逸脱することもあった。鯉が窪を守る会の方に確認していただき、生徒の創造性を大切にしながらも、修正を加えて、正しい情報を伝えられるよう苦心した。</p> <p>また、7月と9月に現地学習したが、開花時期が違うために、取材できない花もあり、鯉が窪を守る会の方に写真を提供していただいた。</p>

(3) 児童の反応

〔生徒の感想より抜粋〕

- ・自分たちのアイデアで、地域の魅力をいかに発信していくかを考えたり、キャラクターやパンフレットを作ったりすることが大変だったけど、みんなでアイデアを出し合いながら活動ができてとても楽しかった。
- ・デジタルマップを作成し、地域の方から「これまでの鯉が窪湿原のイメージが変わった。」「若い年齢層にも興味をもってもらえそう。」とっていただき、自分たちの取り組みを評価してもらえたことが嬉しかった。
- ・今回のプロジェクトを通して、鯉が窪湿原の豊かな自然環境があることのありがたさや、地域の温かさなど、ふるさとの魅力を再認識することができた。
- ・今後も、地域の課題を分析したり、将来どんな新見市であってほしいかを考えたりすることで、自分たちの力で地域の活性化につなげるための取り組みを考え続けていきたい。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

既存のPR活動や環境保全の手法にとらわれず、中学生らしい革新的なアイデアで、デジタルマップという新しいツールを活用し、より効果的に湿原の魅力を伝える活動を行い、環境保全への意識や観光地としての認知度を高めるため、生徒に活動テーマを決めさせ、情報収集、プレゼン資料まとめ、発表準備など、ほぼすべての活動を生徒に任せ、指導する教員は伴走に徹することにした。その結果、生徒は積極的にオリジナルキャラクターを考え、看板・マップ・動画の制作に主体的に取り組むことができた。教員が生徒の自発的な活動を支援する過程で、生徒が発信力の向上を自ら意識することができたことなど、PBLを意識した指導を行うことができた。

担当外の教員も、生徒の活動を支援するため、教師が積極的に、様々な地域の人材とのつながりを築き、学校と地域のパイプ役となる意義や地域と共に子どもを育てることの大切さを学ぶことができた。完成したマップの配布のほか、YouTubeに投稿した動画をマップ上の二次元コードから見るようにしたり、Instagramも活用したりする方法を、他の学習活動にも活かしたいという声が聞かれた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

現段階では周知活動が十分とはいえず、情報が届いていない方も多くいると考えられる。今後は、SNSによる発信方法の工夫や、市内外の関連施設への積極的な配架など、広報の手段をさらに検討し、より多くの方に本活動を知っていただけるよう取り組んでいきたい。